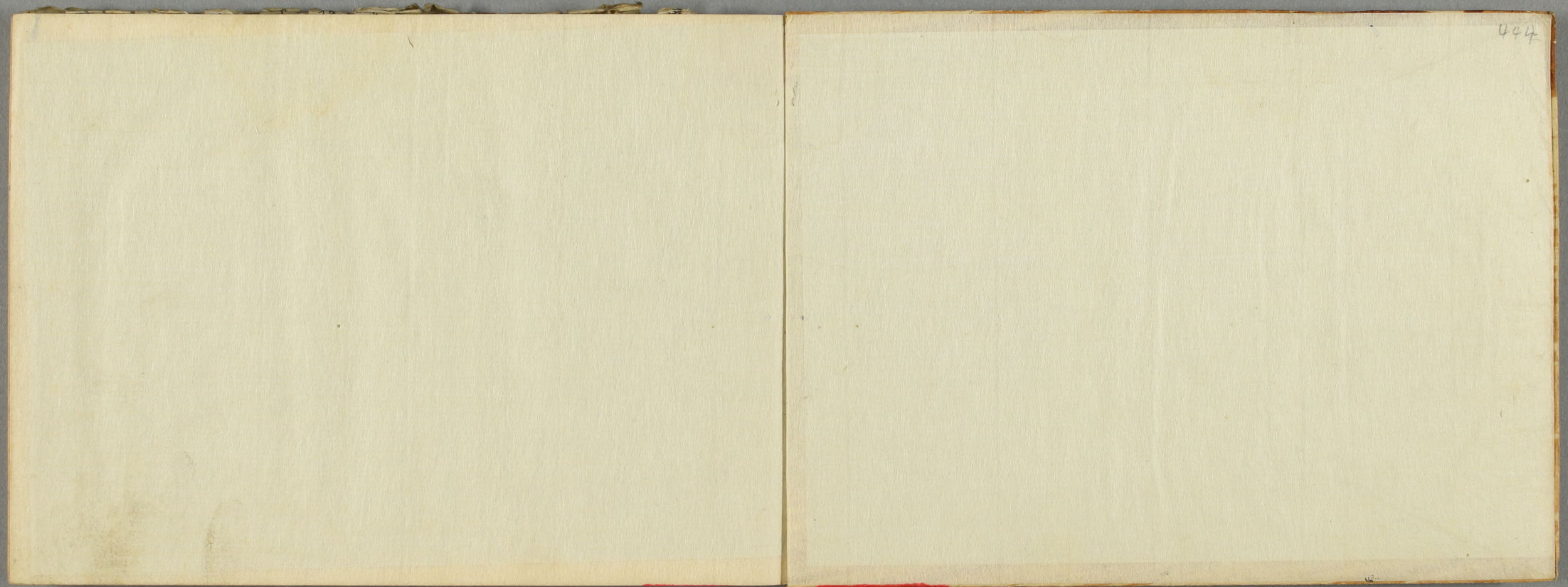


草露傳
利

73
3645
444





門 73
號 3645
卷 444

卓露傳唐名十一



左右馬寮唐名
相嘗正統
唐書曰典範晉令二人
從七品下四人從八品下
掌銅牛馬給養雜畜

左馬頭ハ武友之稱也
右馬頭ハ多田侍中トシテ
源氏朝保元ノ軍切ヤリテ
時頭トシテ侍リ付頭トシテ
侍リトシテ侍リ

義持ハ長満ノ長子也
從一位内大臣贈大臣

公方出陣志願トシテ侍リ
奉ハ猶定院成成持リ
初ハ中書省進奏トシテ
大信長侍リトシテ侍リ

在永元甲午十二月十七日
征夷大將軍義持奉
全二月義滿相國時諸師
法名道義天山十号
全三月源道義北嶽山登
御世三十七

一 將軍公方と稱し
是ハ源満朝トシテ初ハ源満朝
源満朝ハ後醍醐山ノ衣山志願ト
内ハ親式侍奉小内侍
後小内院の中橋小内侍
右上天皇此号号を源満朝

一 付く、美濃小住分(武高)を
一 山名一色主権を代付
妙を日(此を)に願とそそ
副を不日代(と)

一 備不列南新胡(の)内福
美(を)を(は)ら(り)美(を)を
たり

一 後小住院(玉徳)三年七月に
美(を)を(は)ら(り)美(を)を
南福を(山)の上(と)り(は)ら(り)
堂(周)信(と)帖(を)端

才一天竟(才)二(才)也(才)
才三建(才)也(才)曰(才)也(才)
才(才)万(才)也(才)

才一建(才)也(才)二(才)也(才)
才三(才)也(才)曰(才)也(才)

才(才)倫(才)妙(才)也(才)以(才)法(才)創(才)位(才)と
才(才)也(才)也(才)也(才)也(才)也(才)也(才)也(才)也(才)
才(才)也(才)也(才)也(才)也(才)也(才)也(才)也(才)也(才)

百代後小住院(永)
十五年五月六日
道義(兼)手
永徳三年正月(寺)和(非)寺(同)院
別(寺)也(兼)源(氏)長(寺)種(全)六(月)
准(三)心(空)公(日)家(也)

等持院(草)八(住)山(寺)
銀(舎)三(長)寺(寺)殿(寺)
宝(徳)院(兼)善(正)徳(頼)大(師)
平(次)代(後)光(教)院(定)文(三)年
四(月)十(九)日(征)大(一)又(正)徳(頼)大(師)
言(源)尊(氏)流(去)以(十)四(歳)

永(承)元(年)二(月)十(七)日
美(濃)小(住)分(兼)井(元)服(一)
下(女)之(通)持(色)界(殿)之(兼)井(元)
全(三)年(二)月(七)日(一)
美(濃)小(住)分(兼)井(元)服(一)

才(才)也(才)也(才)也(才)也(才)也(才)也(才)也(才)也(才)
才(才)也(才)也(才)也(才)也(才)也(才)也(才)也(才)也(才)
才(才)也(才)也(才)也(才)也(才)也(才)也(才)也(才)也(才)

十九長得院殿上
義持公長元正月十六日亮
從一位内大臣賜大政大臣年
四十三歳

禁之昇殿を以て使あり凡
叙爵の所ハ皆あり玉座下
之并法苑といふも法苑位
下之今并所の叙任規程之

一 爲中宮、童坊より宣りハ

一書考三義満義持
大藏元服叙位、則証長全將
軍三三〇元、百可考

義持上未堂退隱之旨
見之義改、義
上未堂、東未堂、古義改
大御十二年、東山深遠家周
建王、以日、額、一、
殿三層、湖、音、聞、
東未堂、建、仁、
方丈、設、同、仁、
半、
行、此、
水信坊と云ふ又目朋
と書ふ、義持が中未
堂小退隱す、中未堂を
おろし、と云ふて熱冷ふ
てらひ屋つらいつらうり後
水信坊と云ふ又目朋
と書ふ、義持が中未
堂小退隱す、中未堂を
おろし、と云ふて熱冷ふ

徳永四年四月
道義北、別尊、依
丸山殿、
十一人、金、桐、寺、
此、
又、
任、
此、

當此此沙奇
甲府
鈴木

又、
任、
此、

より同朋の名ハ初と云
之未堂ハ信あり、未山殿
あり又也山殿と云ハ
花満との中ハ
一 左馬頭の女ハ信義の後
の母ハ信友あり信友ハ法苑
はらたは左未堂信友系信
大納言の信友也、
トト

鎌倉公、
執持、
尊氏公、
高師直、
義隆公、
細川公、
新田公、
伊藤公、
新田公、
此、

源家の代ハ執持と云々
并冷との内ハ執持と云々
と足利尾張の信友ハ同朋
并冷と云々と云々
友信と云々と云々
より友信の号初ハ信友
中ハ信満との代執持也

の例とすべしといふ所の御針とて
未考

一 八節ハ 柳裏(注) 三才様
服込と月見巾着 水鏡あり
何れも七日月色と浴衣の
ま札の古書といふ

一 柳裏宮の注ハ 御針あり
御使ふとあること御針とてを
御針の上と云ふこと

一 扇中(柳裏)の注ハ 柳裏は
ハ後上人を座を多しは陪
陪之若本原ありと云ふは
一 後列たることハ口傳元
の中人と撰てハ陪陪之
二 方様(柳裏)の注ハ 柳裏の時
御針新々又宮大納言とい

由送つてありて大長よりハ柳
と云ふは 柳裏ハ大長と云ふ
向ハ送つてあり

一 柳裏より注取押込てハ柳の
巾着を御針と云ふことハ柳裏
御針ハ巾着の巾着ありと云
はりて御針の時ハ巾着ハ
御針を左ハ巾着の巾着を
おとて 御針の時

一 二方様法あり(柳裏)の注ハ
御針ハ巾着の巾着ありと云
ふは 柳裏ハ巾着の巾着あり

一 扇中として 是は御針の事
十月御針の御針と云ふはハ
御針の注ハ巾着の巾着あり
是は御針の御針の御針の

細川 香河 安富 香西
由友 柳下 秋元 素良
池田 波登 三好 长隆
兼所 以上十二氏

一 河相伴元士二人

新田 足利 大内 大友
新波 富山 細川 千景
和田 仁木 本曾 三浦
北条代より 山名 一色
かゝり 山名 伴元 二人
と云ふ 二藏 足利 の大名
護の中 之 撰 爲 事 也
少 河 伴 元 二人 也

一 河伴元

細川 中將 一色 義隆
赤松 刑部 中將 三好 隆正

上北 氏 中將 山名 富山 中將
富山 富山 中將 大内 三郎 氏
山名 七年 富山 中將 中將
赤田 六年 細川 中將 中將
白山 膳 中將 日中 中將 中將
伊藤 中將 中將 伊藤 中將 中將
日中 中將 氏 七年
此外 仁木 吉良 乙 橋
吉良 吉良 中將 中將 中將
中將 中將 中將 中將 中將

一 赤氏元

一 赤 細川 中將 中將
二 赤 中將 中將 中將
三 赤 富山 中將 中將
日 赤 富山 中將 中將
乙 赤 大内 中將 中將

滑りと流法不しし尚書
所下しし常刀掬取之所不
付明白ししわ不付掬取
しし付之相法又付後少得
中納言源中納言大納言と
呼ばし是進下り之為して
大納言ハ掬取法氣古言の
不ハ此言を以先途と云取
之ハ此方取の事なと(滑り
枝なりといふも大納言より
上)是りの事なりわし
今の武吉又羽林取名あり
舟の事取まじり方掬取れ
法取目あり(掬取)大納言を以
極取しし付之(舟)の事取
取し之位より取りし肺^稀之

沈小并油掬取小並て決一任
相國小並り取人と大納言と
果をとりし掬取世取、付々
け取まじり六位相國(掬取)官
位を以別る位、叙して太閤
秀吉より法更にと云事あり
任取の事お多し

- 一 尚府大名と号いあ佐、本殿
お之に支取一色吉良今川信
一 孫之大名と地續ハ掬取之
信吉身下りし(大名と云ハ
身下り人より其取切取
取を以(とり
- 一 細川のおハ承吉の所子承吉
より(承吉)承法と云位本朝
一 号、取之承法、孫之(承吉)

もろ

- 一 二方の中少将出官の邊處へ
入集の内より及付法法史と
曰ふ之自余の按あるに是等之
一 奉納之筆札を病うり例
此等の内因とて一書とら
へさる礼法おのり
- 一 中少将は法王内とて沈を府
に寄進し礼法あり
- 一 殿上の右へ奉納する内は是等
亭より大足打たれし
- 一 法史又平侍の右殿上へ奉
納り大足打亭より是打
- 一 日休 法史より河橋のり殿
津結する人の食
- 一 河石又河屋屋敷津使屋敷
人よりしてとらるる

草露傳 十二

一 河教書示

河教書示
九代將軍の御小書
河内より法部卿
三筆紙と河内を
河内を河内と
河内を河内と
河内を河内と
河内を河内と

結部中務大物集云
河内相中へ條地
可令津代

永享十一年分旨河判

千葉介

於結部中務大物集云
河内相中へ條地
可令津代

永享十一年分旨河判

河判

右是と河判
河判

内書之... 傳中... 招承... 書...

合口... 友... 賜軍... 仍... 達...

平... 尾...

山田... 可... 仁...

貞和五年四月七日

山...

曾... 亦... 踏... 他... 但... 市...

右... 貼...

惟... 蜂... 之... 永...

右尊光院及中代女成細
川村行

可令早曾我 兵部省氏助
法師 道名 任知 の 換玉名
田原市

右尊光寺の寺額 宗行也
者早先例可沙法成并

康和元年三月廿日 右尊光院

右法法院及中代女成
細川法成之寺と申す也

一 能行年

乙未の年 法成院より書
出

曾我上野介教清申上乙未
野洲郡保原市度に能成

行古と復さるり能成と云
早和去年三月十六日還浦

法成に可成沙法成教清
乙未年と云也仍執達并

寛正六年分十音 尾張守上判

依本大胎更入道成

曾我岡太常時法申後河内深
郷 乙未年三月八日

法下又乙未年可成沙法成状依
作執達并

建武三年十月十音 武藏守判

小幡守入道成

右尊光寺の寺額 宗行の法成
知多れと云後代より施

仍と云

一 道成

執事より書出給りしに
たゞいふ復代の中觸るる
とて尋ね給ふといふことあり
又去るにたゞいふことあり

曾我上野介教法中
野洲那保保左衛門
十二節終り
付書件

寛正六年十月日 沙汰判
今江澤金入及後

又いふにたゞいふ

尚且和同那事終りしに
去るに山田和言可
去号月日 宗政判
去復代也 去及

一 打渡状事

去復代の状にも復代を
法とて下中付ると打渡と云
又是れと法とて知り下
知るに海証人川渡と打渡
と云能はと云

因防由田保保地頭威
為料不と云重号我去延
師法由事但去貞和三年十月
二法教書に台位法不沙法下
地於師法代に仍仍新打渡
之状也件 左馬尉
貞和三年三月毎日 主殿判

一 法在状事

海証人川渡と云
因防國田保保地頭威
事但去貞和三年十月二馬尉

漢上曾新宮漢入乃啟

一 清賦占案

漢禁裏上 仁出東上上之
漢軍軍表上 仁出上上之

相國寺麻院院使事 於尚
知以介志冰不可 仁出上上之
對法雜掌司 漢奉書中 也

曾我三春次

文永四年六月十三日 於

松田之斗堂次

一 清下知古案

河內國野尻村章

飯尾左衛門順正 仁出上上之
及遠記 仁出上上之
仁出上上之
仁出上上之

仁出上上之
仁出上上之
仁出上上之
仁出上上之
仁出上上之
仁出上上之
仁出上上之
仁出上上之
仁出上上之
仁出上上之

仁出上上之
仁出上上之
仁出上上之
仁出上上之
仁出上上之
仁出上上之
仁出上上之
仁出上上之
仁出上上之
仁出上上之

篇志多度 可之清成
可之清成 可之清成
可之清成 可之清成
可之清成 可之清成

系大和智

文永二年七月十日 仁出

戶川大監元

北佐佐木清成

弟古人揮云 仁出上上之
仁出上上之 仁出上上之
仁出上上之 仁出上上之
仁出上上之 仁出上上之
仁出上上之 仁出上上之
仁出上上之 仁出上上之
仁出上上之 仁出上上之

文永六年二月十日 仁出

左系文治朝判

後河守啟

知以介後河守 仁出上上之
仁出上上之 仁出上上之
仁出上上之 仁出上上之
仁出上上之 仁出上上之
仁出上上之 仁出上上之
仁出上上之 仁出上上之
仁出上上之 仁出上上之

亡市遠之紙号代发之旨可入
初之於事字去之病及乃次
才也而冷早但清成敗之旨
近遠紙之族深可也全信能
而之何也仍執達也

大和寺判

文明十一年七月十日

加賀寺判

曾新寺判

惣領藏并知引分布之細
末早但去之七月十日同旨
平次濃情之旨可也全信能
而之何也仍執達也

下御寺判

永正五年十月廿日

寺判

曾新寺判

右下知伏而之古事也又
之の内之人の名未附之旨
之書之及之信之照承凡下
之抄之之一法之照承の附
之抄之之戸之之抄之之旨
之斗又之及之旨之旨

一 清之古事

之紙を之帖之旨以之旨
之抄之之旨之旨之旨
之旨之旨之旨之旨之旨
之旨之旨之旨之旨之旨
之旨之旨之旨之旨之旨
之旨之旨之旨之旨之旨
之旨之旨之旨之旨之旨
之旨之旨之旨之旨之旨
之旨之旨之旨之旨之旨
之旨之旨之旨之旨之旨

慈照院御判

山城国伏見金光菴御判

抄

本邦經之後代大言之使若汝
等先活て潤之五山十利寺
一十之序ノ多ク之堅ニ六外
折口一外所ニ外目多ク書
免書之云外之土色之同以各
一枚接外包之外之如右

天倫和尚内大臣判

一 公帖 上書 公送付

建仁寺住持藏主
以先例可也執務
所波 仁也仍後

如件

奉号月日

名号の信

三三列

名号の信

三三列

潤首序

一 異國體成 古案

日本國 征夷將軍源秀忠報章
濃毘敷國主

信尺入斗細覽薰讀恃贈
數般之奇産如列録受之
實至情也地已雖隔遠其
志親則不異隣境二國高
船往未每歲互可通之時
々欲聞國風耳雖是薄物
本邦之兵器鎧三兩共皆具
寄贈之以表志餘事本多佐列正信
可傳說季敢不能鏤陳不備

慶長十七年子孟秋仲浣

上使礼曹參議

御朱印副使弘文館典翰

上使史曹正郎

下知可致掃除之旨依仰謹書
應仁元年八月二十日

右、細川勝元山名宗令と并
香舟勝元清布を殿國を内
任、北道、早國を解て勝元を平
安太成と之物元より交分を
注中快のち書

一 尻付交名書格

從五位下行越後守平朝臣
資永城九郎資國男母將
軍三郎清原武衛女養和
元八月十三日任叙

又

從五位下藤原俊綱者
字足利又太郎武藏守秀
郷朝臣後胤鎮守府將軍

兼阿波守兼光六代孫散
位家綱男也

右は新を尻付とて付外由緒
書の格とて書るに二府、はとて
伯父等院後清代いつれの
まゝ勅官位何す、父兼ハ
茂詮との清代何由を賜官位
何今兼茂詮との清代、はと
今清代と二代古勅何及、
何付官位、はと書、は
録書とて親近書とて世用
格格めと

一 所内書冲法古案

徳結城中将中將補法退治
如、所内書長頂載法
所内書白波館一法古案

川一系先の史と入り仍喜後
以清吉力言今會所官
上居之官漢

一月廿二日
月日判
○ 官市より

今度天海前大伴正太師連等
之儀 勅許付大奉事海由出
礼の史傳より其の山岸判事
お宣敷らん所や

一月廿二日
月日判
○ 官市より

内大臣清任の奉り不任の身
奉るを此多し理といふ
上言お遣わらうとあり
宣下せられ既ぬ畏入奉
奉りし奉りていへ既少

○ 官市より

○ 官市より
大納言
月日判

一平令管連り今度中納言
判翰道連目判判入
如き上竹下連判判
此心難く父合上ありわら
心史書入上府宣判判
おはらうと漢

○ 官市より
月日判
○ 飛鳥井中納言

池又而号之毎と開百辱致
何り取ある心易と後法は
海船御礼之奉りて其後奉
之奉りて合能連平也

海之長流病字身白神清
清之字返煩肯有言之宋
之紙能依之紙成不希
之之清也

月日 之宋字和
各字

之亦不之。

亞相字方為九也移清之佳受
子能百清目也其量以傷之
夫去其紙以方其序了且早
翰之清之數也富佳之清也
仍吉力一應言一也并調合之
意為二種之進管之也表流
如中一也

月日 一多
判

紀存大納之後

付下水戶等門清呼物等由

修子未少異源之字不也
之之清也為下之之今能
素然如也也色深亮等之
且使也之吉在太清乃也

空談 三書市按政也

月日 判

紀存大納之後

之及能 遷言法系中如
但上之書南北之新之何能
也極少也之逐向教之清
逐之字之在史之也

月日 判

如如之中納之後

今及能也之不他界之書
之之山新之清射之也書
并白浪清更之也之也

三石探字の紙不及法文の
法文中の初文源一紙大
文不知而附之付与官紙
沙法之官紙

年月日
九字全右紙一紙六周
判
之紙不との

然心所行も入合流去時二種
陰煙少少毎毎のまじり有
分りて交りて法不表と官書
とて抄紙落不希也官紙

年月日
九字全右紙一紙六周
判
之紙不との

一
折紙抄紙落
紙通衛殿以下法書落
紙落見紙何々法文紙紙
遇合紙極官書紙付与

官紙抄紙落日之紙落

年月日
苗字官
全五判

白川中抄紙
之紙不との

右紙不法文の付り少く官
紙これの紙一人の紙不
九折紙の字一紙中紙に備
紙四方紙文の紙落不及抄紙
紙を多し法落一紙概回書
をりといふと毎少紙落
いふの抄紙所官紙抄紙
ありとあり双方の音界
よりてありとあり

一
口紙書一人官五十九代
官多天皇法源位の後法落
傍して延長日本官紙に和

備中法眼浄房

右法眼浄房と云い山寺より
又三人と云ふ於大極殿五月
八日より十日迄毎日最勝
王經を講讀せし向ふて
付經必書を讀むと云
あり 此より法眼浄房と云
之出の三井寺より如法に
又此の後代此の儀と
いふ

一 法眼浄房法眼浄房と云ふ

浄房

一 浄房令智達より何と云
法眼浄 大智寺浄房何
浄文 浄房何の時浄房と

宣徳のころ浄房ありと云

月

宣徳のころ

右法眼浄房浄房と云ふ

又此のころ浄房あり
たむりかかへけり
浄房ありと云ふ
浄房ありと云ふ

月

浄房

右法眼浄房浄房と云ふ
浄房ありと云ふ
浄房ありと云ふ
浄房ありと云ふ

海ありては高水候

草露傳文法十三

一 奉書古素

上言の紙を正人らりて
之をよきとてその法
去の既く紙、筋を已而
又筋なきは法也(已を
也又とて)也又奥ふとて

先より於山林か道田也
作行りて對りて各可致ふ
勤るに汁渡り候

月日

伊勢守

- 一 色なきを交成
- 二 山と系文の相成
- 三 和川と相成

此稿何刻一以行之若其後日
後世皆達上國去之福言下
皆法多矣及下長 守其法
海

吳法与判

十月六日

上野合判

拾津後

二階堂後

波多北後

一 在朝野富士野中而法出
也又古案

今及富士野卷持可也
他史法江市付三々年平事通
符之礼八層中於浦各戶教
漢他乃他甲之波明中中
暮海上日於拾津也一之谷

引表

方我汗之馬是依勵忠功法也
父子善一以合誅默源中言
上之秋之恥辱之依法王也
及上之新相結号依忠言
士也於法依之代未因也依
於朝富士是也其持及後付留
石遠及呂言中胡之侍中帶
浪言多教在志制之同合也
之也吾在法甲也其依法也
少也之元相與與州之仙慶今
津之也人之元表也也也也
中其持去六月十日也其也
平法也其也也也也也也
仍思又信 仍思

卷八 吳朝何判

建久元年正月十七日

主事任日亦留去所去於六月
十日亦去矣小信亦不待申
以令右中階限古列蜀古語
亦去之至春去之也仍陸興
出羽中階道也又併

建久元年正月十七日

後人更相辨別

主事任日亦留去於六月十日
十日亦去矣小信亦不待申
以令右中階限古列蜀古語
亦去之至春去之也仍陸興
出羽中階道也又併

建久元年正月十七日

後人更相辨別

主事任日亦留去於六月十日
十日亦去矣小信亦不待申
以令右中階限古列蜀古語
亦去之至春去之也仍陸興
出羽中階道也又併

主事任日亦留去於六月十日

後人更相辨別

建久元年正月十七日

一 主事任日亦留去於六月十日

奉書長源見任日亦留去於山

料如追物也

任日亦留去於六月十日

主事任日亦留去於六月十日

出羽中階道也又併

後人更相辨別

月。

任日亦留去於六月十日

一 主事任日亦留去於六月十日

奉書長源見任日亦留去於山

料如追物也

任日亦留去於六月十日

汝等琴之志及之之仕
汝等之畏今亦非汝等之志也
若也たし言六信之可取也
此等之志也

名子信

月日

名子信

定不殿
免不殿

右の法文ニ由る因之の花布
法國皇の法文ニ列せしむ
後譯之去月何々也又其々
今月何何何何何何何何何何
見也と云へし

一石物

法皇若石は法皇若石は

宜月安由多法文十枚重敷初
合七六条之也名加裏別進
於此之也名加裏別進
其之也法法双方苗人志
元百連之也法法之海

佛土の石名

月日

法殿

主方連之支配之居有申出也
才之は日女法殿之早一丁名
也之必進之也名加裏別進
也名加裏別進之也名加裏別進
謂理法也法文之何月日也

七月日

名子信

名子信

判

中宮の格下書は多くは同列の
 友位の人なら長形直虎再
 の中宮未し中宮と調と
 たりし能之又物の皆冠し
 陸揚を三府の冠は湯之
 主物に五出所しては中宮を
 上連判の物の中宮は地は
 常後御奥判取なり

一 連判の事

乙種清良

月

名を友	名を判
名を友	名を判
名を友	名を判
名を友	名を判
名を友	名を判
名を友	名を判

右連判の格下書は湯之御又
 ③封を母は格又とも上包れ

上包れ中宮を以て是右を以て
 名を友府の上首二人御まで
 余は降しし是判も重なり
 才の名を去付の奥へ之表
 書府にけり之は行は連判
 名府を包ふ事名を友府の上
 首一人又り二人の名を友を
 去て名を友

後	前
裏	表
下柳系久在馬	上利美
上三村玄南少	下赤見
上松村為監殿	下五田式部殿

一 連署の事

署の言舎又の日と判り
 日を連の言へ官姓美
 名を一列に書を連署の

格とあり又ハ名存不友言ふ
と一ハハ各たハ古あり

敬白 祈願事

八幡大菩薩 御神前

雄剣 一振書

赤白旗 八流

右志者拙察使大納言兼
右衛門佐近年因 君命
振極威於 朝判無罪之
諸臣或遠流或近流是併
無不有逆心哉依之當家
家之一族奉義兵欲七改黨
借考往年父武藏守長定
為 朝家古宥志而詣廣前
一七日讀誦大乘經滿七
日曉蒙冥夢既祈願成就

今我等雖為不肖身憂
朝家之表敗切也伏冀因
神德之擁護欲為
朝敵退治仍同志之願文
如件

壹岐守藤原知家判

年月日

遠江守藤原知重判
佐渡守藤原知成判
出羽守藤原知之判

右の孫を連署者連判の孫
とは字之如仏の清の如を
海の川をす小洞はとるの如

一 異見伏事

とるの云々見物と云々
字の如く是事と云々人

丁未

十月十日

系甲斐守

三木利

伊勢守殿

右又その故に何より一篇
 不定なるや後言字まへに
 白の切や切しあふと濁す
 百の切しと名ひきり改め
 中ふと家目女粗多し各あり
 而より日付を如古言とて
 時の海人のおり何月日
 と斗きて出す事ありまゝて
 日付を如古言を海人あり言
 留るるを事し所く留るるは
 方同く言を文留言とて
 ちよ一はく留るるを一方の
 尚人等言及双方の言を見各

文留言とて言を二同言の
 流とて奥見たり許一取し色
 して内りてく名家言まを流ら
 言とて言を去りて留るるを
 女留りし色は流らると斗
 うと奥ふ名を去りて同女は
 色をへし色を去りて色

一月女書書

表書とて目女とて採るる系とて
 言り急なりてを討て女は若くは
 未と日教とて家言中付とて
 可謂言とて
 九月十日
 信達判
 花下殿

右海人より下りて目女の言と
 して言とて言とて言とて

一 二回書目表

吉名村
吉名村
初回

山中深二年重之續言上
古伝四回吉名村

右件不吉氷和未中深院庭
多、自深史名神、舟給、市文、
不、無、元、
下、一、礼、
度、
修、
吉、
光、

年号月日
所奉仍不

一 初言

山中深二年重之及言上
依、
吉、

右、
津、
於、
地、
思、
中、

年号月日
所奉仍不
二回、
三、

言名の下の字を一字ずつ書きて
流石の流石の流石の流石

一 流石の流石の流石の流石
字とくさ 流石の流石の流石

所字流石の流石

所内書きと流石は合書

仍所字一胎流石百卷其合

夏流石の流石の流石

山流石の流石

月 松戸信流石 長流

二階堂流石守流

右の流石の流石の流石

所内書きと流石の流石

所字と流石の流石の流石

流石の流石の流石

所字の流石の流石の流石
右の流石の流石の流石

與本流石

所内書きと流石の流石

仍所字一胎流石百卷其合

夏流石の流石の流石

山流石の流石

月 松戸信流石 長流

所字流石の流石

所内書きと流石は合書

仍所字一胎流石百卷其合

夏流石の流石の流石

山流石の流石

月 松戸信流石 長流

與本流石
所内書きと流石の流石
仍所字一胎流石百卷其合
夏流石の流石の流石
山流石の流石

又新編と改訂人 漢文と云ふ
與春集内言と云

但古抄と云ふは成書の内依
作下知す所

年号

新編と判

月日

左の付判

承久五年より

右のとく又の撰述より下
言うてと云ふ海軍あり

志林院敬中代

其願成 知法分法と云ふ

早稲の七月十日日名年法撰

物と云ふ全成知法と云ふ

仍執を撰

承五年 下世と判

十二月廿二日

左の付判

曾我又改訂後

一 家傳抄

系位評と承久五年書事記

と春集と云ふと秋評年者早守

先例成書と云ふと書述抄評

年号

月日 申判

承久五年より

右文存せしめて五(代)巻撰

舟よりなりと云ふ古法の抄

と云ふ評の部と云ふと云ふ

と史記辨世系と云ふと云ふ

先と云ふと云ふと云ふと云ふ

一 鑑目抄

松田三因(在)一 部年仁先例

宛り年と云ふと云ふと云ふ

下知りと云ふ

年号

月、沖列

松田城アノ

右徳目ノ師トシテ、父ノ居テ
後ノ人ナリ、後ノ山ノ名ノ是トシテ
ナリ、押成、少重トシテ

一 沖列位内書出

今度、沖列位内書出、清生ノ高
ニ、村ノ万景、山ノ景、保、天下
中、静、澄、海、江、同、島、跡、下、之
去、交、下、之、古、名、居、之、仍、居、居
沖、列、位、内、書、出、一、馬、沖、馬、一、天、跡
之、居、之、山、跡、居、沖、列、位、内、書、出、居
之、之、居、居、居、之

名字の居

主君

月日

三條殿

今度

右ノ名、今度、内書、出、之、一、

一 沖列位内書出

右ノ名、今度、内書、出、之、一、
沖馬、一、天、跡、居、沖、列、位、内、書、出、居
之、之、居、居、居、之

右ノ名、今度

主君

伊智ノ殿

右ノ名、今度、内書、出、之、一、
馬、跡、居、之、一、天、跡、居、沖、列、位、内、書、出、居
之、之、居、居、居、之
右ノ名、今度、内書、出、之、一、
馬、跡、居、之、一、天、跡、居、沖、列、位、内、書、出、居
之、之、居、居、居、之

一 大沖列位内書出

今度

一 筆、波、居、今度

若君、様、沖、列、位、始、之、之、之、之、

上杉 由河内藤原以
 冲持松原武光少佐因武
 上杉仍冲吉一腰冲馬一尺波連
 時子公秋室松原武光少佐因武
 月 名 名
 完 完

友之石付定より一と度
 冲方冲西藤原代始千枝百
 名松大冲西藤原代始千枝百
 名松大冲西藤原代始千枝百
 名松大冲西藤原代始千枝百

一 同 大冲新藤原
 一 筆 致 曾 今 度
 若君孫 身 渡 冲 代
 大冲新藤原 大冲新藤原
 大冲新藤原 大冲新藤原

一 腰 冲 馬 一 尺 波 連
 冲 若 新 藤 原 大 冲 新 藤 原
 名 松 大 冲 西 藤 原 代 始 千 枝 百
 月 名 名
 完 完

一 法 大 名 大 冲 新 藤 原
 公 方 松 冲 新 藤 原 大 冲 新 藤 原
 大 冲 新 藤 原 大 冲 新 藤 原
 大 冲 新 藤 原 大 冲 新 藤 原
 大 冲 新 藤 原 大 冲 新 藤 原

大 冲 新 藤 原 大 冲 新 藤 原
 大 冲 新 藤 原 大 冲 新 藤 原
 大 冲 新 藤 原 大 冲 新 藤 原
 大 冲 新 藤 原 大 冲 新 藤 原

馬一匹と養子と古宗
一回沖法文

枕書書去條仕り為

上使承氏於浦波也宗宗

一膳沖馬一丈波津願宗宗

宗宗書存物中古書度

洋貝所度額三其比之云

宗宗所 沖若宗宗能成

宗宗宗宗宗宗宗宗宗宗

一丈宗宗宗宗宗宗宗宗

月 宗宗宗宗宗宗宗宗

右親文存宗宗宗宗宗宗

宗宗宗宗宗宗宗宗宗宗

宗宗宗宗宗宗宗宗宗宗

一 串宗宗宗宗宗宗宗宗

宗宗宗宗宗宗宗宗宗宗
宗宗宗宗宗宗宗宗宗宗
宗宗宗宗宗宗宗宗宗宗
宗宗宗宗宗宗宗宗宗宗
宗宗宗宗宗宗宗宗宗宗

月 宗宗宗宗宗宗宗宗

宗宗宗宗宗宗宗宗宗宗

宗宗宗宗宗宗宗宗宗宗
宗宗宗宗宗宗宗宗宗宗
宗宗宗宗宗宗宗宗宗宗
宗宗宗宗宗宗宗宗宗宗
宗宗宗宗宗宗宗宗宗宗

月 宗宗宗宗宗宗宗宗

宗宗宗宗宗宗宗宗宗宗

宗宗宗宗宗宗宗宗宗宗

物毎に文法を記し、此
文書に古法の目録を
一上書す

右馬頭殿
名

伊勢守殿
名

左大臣殿
名

右大臣殿
名

左大臣殿
名

松村右衛門殿
山名

山名

松村右衛門殿
山名

遺書送状

一 遺書送状
山名

山名

山名

遺書送状
山名

遺書送状

上ル少遠凡文納侍り其傷仕
 辰由言をたれし心も万理
 二乃言を心付成す
 月、
 上波澤正左衛門
 山名佐治守殿
 其被

倭人亦死文字半

崩御 登山 晏駕

楚夏 院所石 女院

遷崩 薨御

二宮 継親王 官

御陵 早去

若宮 東宮 北宮

薨去 薨逝

拾遺周白將軍家官の及 古言

逝去 大中仙々 官年お
將軍連夜の来りし由を

卒去 中が少将 口伝 殿上人

遠行 遠去 去後三信の向

死去 平人

平本 章 換館 石泥市 桐々

平本 章 換館 石泥市 桐々

平本 章 換館 石泥市 桐々

入滅 涅槃 佛滅

寂滅 池師

円寂 長光

遷化 如母行
若死の心は他年未済
 召子毒也

早世 追腹切

殉死 追腹切

一 物教之根

甲 一 瓜 類 一 画 唯 攝 一 下

漢一仄 版一仄 羽凡一仄
 袖一仄 小兒一仄 佩指一仄
 鷹齒一仄 上帶一仄 水冠一仄
 虫齒一仄 天衣一仄 佩指一仄
 地衣一仄 渡帷一仄 毛氅一仄
 乳袋一仄 母衣一仄 旗一仄
 旗竿一仄 軍扇一仄 團扇一仄
 再席一北 岳一仄 幕一仄
 幔幕一雙 野幕一雙 兒帳一雙
 幕串一仄 丈靴一雙 貝一雙
 征一梅 一帖 柳一帖 奇一帖
 生奇一帖 劍一帖 打刀一帖
 洗一帖 標一帖 陣旗一帖
 然手一帖 孝口一帖 芥一帖
 竿一帖 小刀一帖 小柄一帖
 月琴一帖 琴一帖 一帖 一帖

切一仄 賊一仄 池一仄 珠目一仄
 鞘一帖 箭一帖 弓一帖 一帖
 服一帖 履一帖 胡一帖 一帖
 靴一帖 靴一帖 冰一帖 一帖
 的矢一帖 冰一帖 的矢一帖
 弓袋一帖 箭一帖 一帖 一帖
 弦卷一帖 送袋一帖 調一帖 一帖
 矢立一帖 矢捲一帖 百一帖 一帖
 身羽一帖 行騰一帖 決袍一帖
 火繩一帖 弓立一帖 烟一帖 一帖
 果入一帖 玉袋一帖 一帖 一帖
 沈一帖 押盒一帖 一帖 一帖
 了肌一帖 切付一帖 一帖 一帖
 響一帖 刀草一帖 一帖 一帖
 野杏一帖 舞霞一帖 一帖 一帖

鼻皮一
鼻括一
馬面一
止能一
衣一
膠帶一

冠一
烏帽子一
袍一

古袴一
袴衣一
小油一
上下一
袴一

袴衣一
袴一
單一
羽織一
袴一

袴一
袴一
袴一
袴一
袴一

袴一
袴一
袴一
袴一
袴一

袴一
袴一
袴一
袴一
袴一

袴一
袴一
袴一
袴一
袴一

袴一
袴一
袴一
袴一
袴一

袴一
袴一
袴一
袴一
袴一

袴一
袴一
袴一
袴一
袴一

袴一
袴一
袴一
袴一
袴一

袴一
袴一
袴一
袴一
袴一

敷帳一
帳一
帳一
帳一
帳一

帳一
帳一
帳一
帳一
帳一

帳一
帳一
帳一
帳一
帳一

帳一
帳一
帳一
帳一
帳一

帳一
帳一
帳一
帳一
帳一

帳一
帳一
帳一
帳一
帳一

帳一
帳一
帳一
帳一
帳一

帳一
帳一
帳一
帳一
帳一

帳一
帳一
帳一
帳一
帳一

帳一
帳一
帳一
帳一
帳一

帳一
帳一
帳一
帳一
帳一

帳一
帳一
帳一
帳一
帳一

帳一
帳一
帳一
帳一
帳一

帳一
帳一
帳一
帳一
帳一

帳一
帳一
帳一
帳一
帳一

管冷一柄 大鼓一柄 琵琶一柄
撥一柄 尺草一柄 簫一柄
鉢一柄 簫一柄 簫一柄
杖一柄 簫一柄 簫一柄
白鳥 鶺鴒 鶺鴒 鶺鴒
鶺鴒 鶺鴒 鶺鴒

右系小此雅堂內一及一書
外之之之之之之之之之
二十二年之矣し格之也
一羽二羽也

欽一柄 蛇十柄 派光十柄
串流十柄 牙編十柄 昆布十柄
磨牙十柄 幸螺十柄 宗螺十柄
鞋一柄 簫一柄 簫一柄
綴一柄 簫一柄 簫一柄
曲也一柄 簫一柄 簫一柄

菱笠一柄 簫一柄
梳一柄 胎一柄 銅經一柄
簫一柄 簫一柄

急一柄 簫一柄 簫一柄
一喉一柄 簫一柄 簫一柄
貝一柄 簫一柄

琵琶一柄 琴一柄 三味線一柄
笛一柄 尺八一柄 大鼓一柄
右左抱記一柄 簫一柄
是了一柄 簫一柄

重字

凡一柄 他一柄
依一柄 情一柄
如一柄 頗一柄
頻一柄 須一柄

口傳
今度百餘年依天徵驗
戰場奮勇向天勝負決
欲君恩之為不隨今
願于仰願者神刀或
從歎或遠活無成就
時者必寸一字誠造
誠或暉志奉畫可走仍天
願書敬白
神
和
禮
被
卜云

糸愁結言短風聞其科條
一更吾非把牙虛跪舞起
也不仰尊鑑難放愚意伏
願及逆殘容之輩一收
神光代劍惡徒誅罰給丹
誠有誠玄鑿莫誤仍祈誓狀
如件 私云此上亦八省同シ上レ
元曆二年六月七日 源義経

奉立願 管根大推現

一 事
一 事

右意趣者為宝祚延長國
家恭平別而家門武運繁
栄也然者神者依敬如護

給忽奉仰諸願成就狀如件

年号月日 名字官姓某

文永十七辰正月二日名字官姓
朝臣某以一心清淨之丹誠
奉祈願

八幡太神靈祠當此有出陳
事容易歎振功之刀偏仰
神威有感應我志得成其
事可奉寄進御社領之地
者也仍願書如件

奉納春日大明神 御室前

右意趣者名字官姓朝臣
其依當病可奉仰
神助也早速於祈願成就

者^可奉牽納神馬一匹^一者也
仍願書如件

年号月日 名字官姓某敬白

右於之湖紙古案其^ハカク
之於之依^レテ^ハシ^レ陣中
於之漏^レ矣^ハ上^レ付^レ花^ハ之

一 寄進状古案

寄進伊勢皇大神宮御厨

在武藏国飯倉

右志為奉成 朝家安穩

仰私願成就殊抽丹誠寄

進状如件

年号月日

正五位下前右兵衛佐源朝臣

寄附

深恩院

参河国額田郡内比志賀村事

右所寄附之状如件

應永六年九月日

入道准三宮前大政大臣

右所寄附之状如件

寄附

等巖院
月前宮

駿河国山名郡大内村地頭職事

右意趣者為

宝祚進長國家恭平別而

家門繁栄武運長久令寄

附之状如件

年号月日

名字官姓某

奉献

日御前社

雄劍 一腰 長治
龍蹄 一匹 鶴毛

右為國家安全萬民快樂
奉寄進之狀如件

天文十一年八月廿一日

正四位下行太宰大貳兼
伊豫守冬良朝臣敬白

伊勢太神宮

今度於美濃國関ヶ原
合戰得勝利為所願成
就

奉獻

御甲 一頭

御鎧 一兩 又領 十ツカ

御鈕 一振

御太刀 一腰

以上

右目錄之通奉寄進之者也
仍所願成就之狀如件

年号月日 名字官 某

南宮

彦太神 宝前

一 神馬納上古索

御神馬一疋 廣毛 御鞍置可牽進

之由所被

仰出也仍執達如件

紅葉山御宮工掛レニ因記之
 刊諸書我又在正門尚姑女門人ナリ
 〇官斗書丁ニ百之云々斗モ
 苗字ニ云々斗モ額主ノ位等
 次等ナリ
 掲道春野越ニ平家物語ノ額打論ヲ難ニ打大ナ何也
 掲ト然ルヘトテ此文字ヲ書ケリ

一 淺沼牛紙

欽惟

銘曰

〇〇〇〇
 〇〇〇〇
 〇〇〇〇
 〇〇〇〇

昔永享五丑稔月日

大旦那正二位橋朝臣時安

奉行

治工

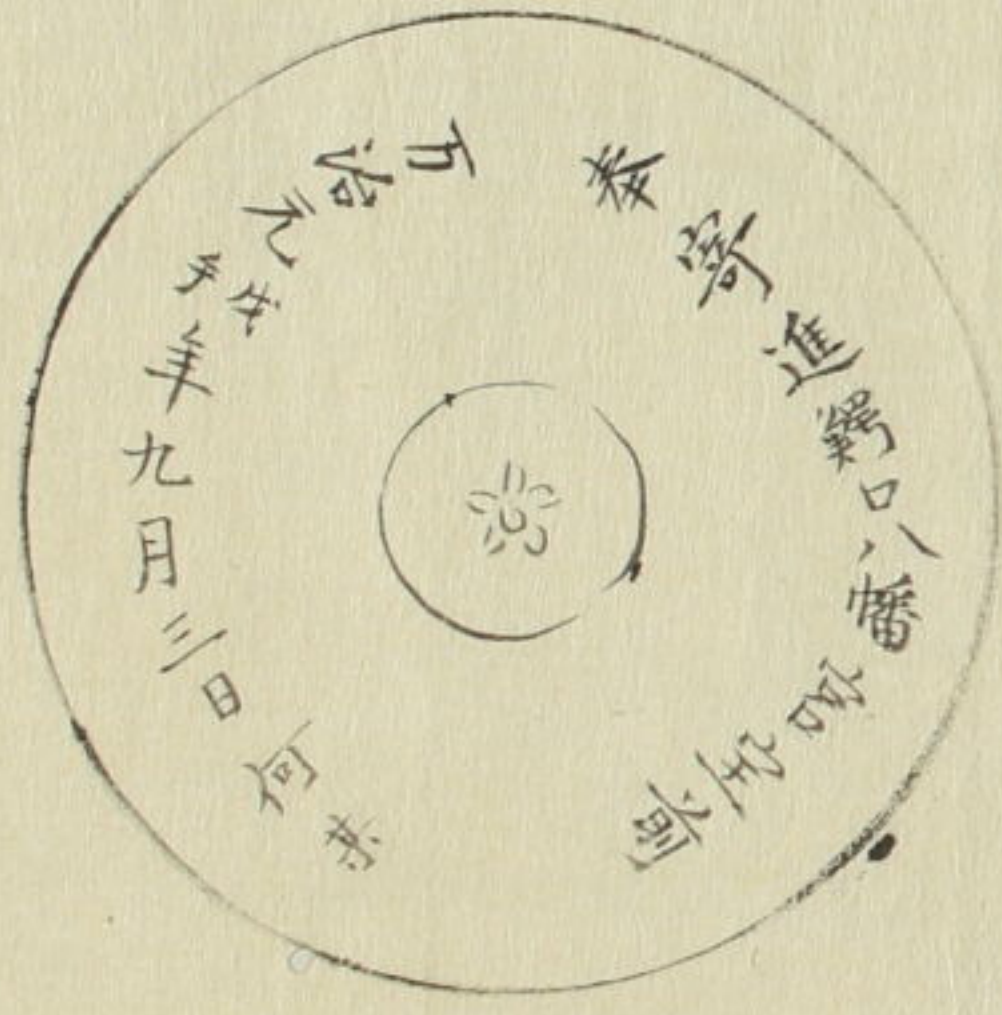
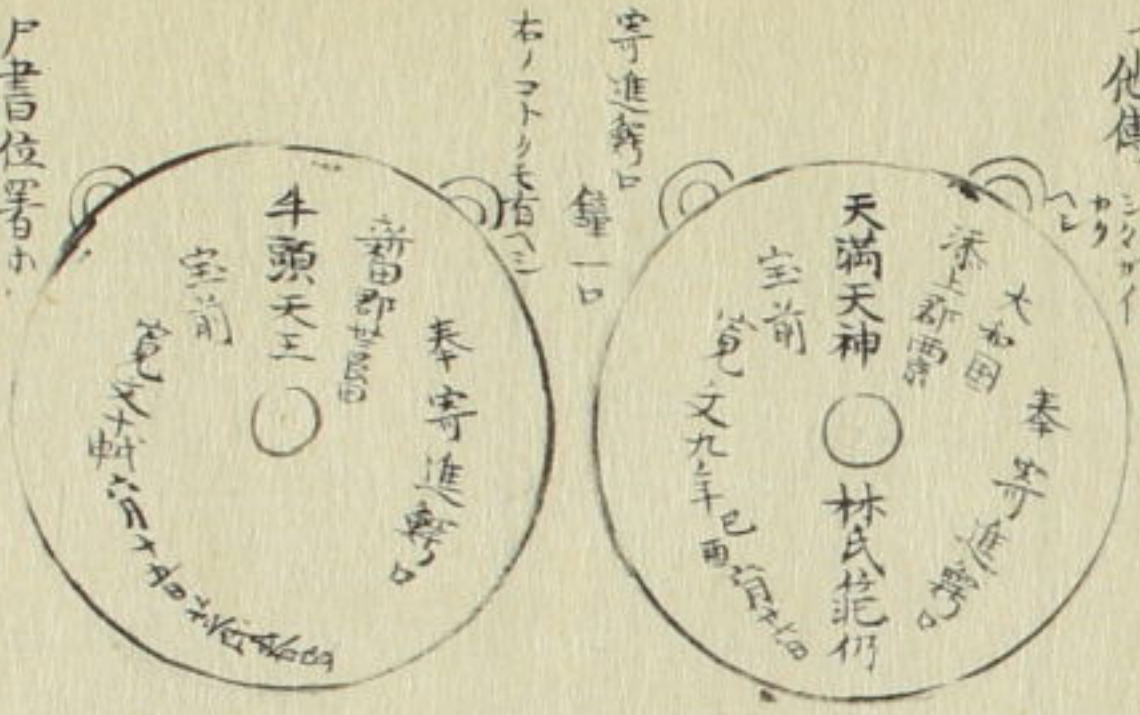
名字官姓某
 名字官姓某

一 鯛口供書付

奉掛鯛口
 柏樹大神 奉掛
 九月日 奉掛
 奉掛氏所願シテ奉掛
 奉掛氏所願シテ奉掛
 奉掛氏所願シテ奉掛
 奉掛氏所願シテ奉掛

奇猷御鐘緒八幡大菩薩
 御空前為祈諸願成就也
 年号月日 名字官某

一 鯛口書付



一 石繫鐵繫書付

妙光院殿大聖坊 御南前
 奉寄進石燈籠 兩基

藥師如來

寶殿

年号月日

原定次第白

奉獻
 銅燈籠
 寛永十年正月七日
 從位下左衛門將 源定次
 本書燈口ノ形 酒井氏志勝
 臨之

奉獻 銅燈籠 二株
武川山
東照宮 尊前

永治四年四月七日 紀伊國主

從三位推大納言源朝臣賴宣

尾張殿 尊前

奉獻 石燈籠 兩基

東照山
大猷院殿 尊前

慶安五年四月廿六日
從五位下能合守
藤原姓多心忠義

右河地院... 此... 寄納... 石地院... 對又... 八三... 何...

斗帳幕書付

奉寄進御戸帳

久留寫

八幡宮 御廣前

年号月日 何某敬白

右東照山... 二珠或一基... 一基... 是... 但此外...

奉寄進 石燈籠 兩基
春大明神 空前

寬文三年二月朔日
從五位下賴宣源姓良成

奉寄進 銅燈籠
春日... 空前

花裏書付
左 奉雙立賀茂大明神空前
右 年号月日 名字官姓某

水鉢... 有之... 御字... 向... 銘...

奉獻 銅燈籠 兩基
東照宮 尊前

永治四年四月十七日
正三位推大納言源賴房

東照揭日 花表削石 左柱
是明是堅 万世垂跡 右柱
年号月日 作者 名字某

又

熊野瀧本王子鳥居銘
十方佛土中以西方為幻主
九品蓮臺間雖下品可定

一碑文之事

保元二年 依兩院御合戰
右肅門督信賴卿於此所卒去
骸屍溢于路頭于時每緣上人
某行如法經奉納也見之進奉之
輩可唱念佛名而已
年号月日



紅葉山野末八奉獻
可然殿へ奉寄進下
御願

鹽盤 于水鉢之盤

湯之盤 銘 沐ル盤

右之既ハ石鹽盤ト書銅盤ト書
銅鹽盤ト書

寺進 石燈籠 兩基
上別者田舎長山

大光院殿 廟前
延享三年十月十日

後位下付藤登守

右有久保重三郎正之
酒井伯元と先師基治
對於之上調之

奉寄進御願
高城明神 堂三所
古史文 延享三年十月十日
田舎長山

紙ラ以テハリラトリ共紙ニ
書付テハリ付 銘ヲキルニ
尺書位書亦可有之

右乃終に給取の餘り不知
年月終り附し書有是也

碑又ハワシノ人ノ心ハ
之真ノ心使を口言ハ言

十二百ノ湯を奉り之碑
功徳トシテ

大光院殿ノ碑を此是ト書
碑トシテ

一級紀書

神前志願 若宮八幡宮
者去建武末中新田左衛門督
直冬朝旨石鳥居 堂冥夢
自有造立 神殿以奉奉仰
尚不法守更奉久香神座
日新ハ危民ノ心を悉成能

後代何事尊崇付神徳我
仍紀紀如併

奉号月日 列尚 法山院

右後紀の洞取ニハ沐ル威徳
因取ノ湯之也尚内上法志ト
人々ノ紀紀を々真小一併
の勅をを洞中ニ奉り之勅を
之事如牒ハ吾列の如之

勅進帳書取ナシ

當社者去元享末申松尾信
法寺及系主久造管ノ可之
而去月旨古ノは復能造管
志願及思信自カ作其者
所信仰ノ旁 一併奉書

眞者

北河合刀志 此之義後世又據 者也
仍勅進帳始併

玉音寺列傳
定編判

八幡宮抄
未号月日 官内判

一 奉加帳書紙

諸位

請紀任國伊素部言野山全判
峯寺大塔依火自虎堂上
因後系十方出於助成令造三
加監也仍奉加執他始併

天文十八願年分之院沙門阿能終

一 砂合何兩

伊勢守中守貞辰

一 浪子何枚

士部平貞光

一 料足何尺

佐木也(源)宗判

一 納米何石

各宗友(同)

一 緒何尺

けい湯治

一 緒何把

非内局

右名宗友判取之形之判
上及之版之、一舟其版唐子
及之付内唐子之名宗子唐子
右法上之字中ハ肩、男の名
之字下之字也(一)判取中
不入能名(一)之字也(一)判取
聖人(一)之字也(一)判取
右山伏(一)之字也(一)判取
之字也(一)之字也(一)判取

帳上

天文十八願年

大塔造管奉加帳

沙門阿能終

卯月上漸

一 本如冲波々

佛言野山大塔生一丈十方檀
好一佛威欲企再無一石沙不
阿他依達 上因冲波海
上日下因中不編世海會福
不勝光若男女之寸志一功德
能去一石沙脚也仍波
仁出下知世併

天文十八年八月十七日

右系文源朝臣判

一 冲松為古案

是ハ松林之形ありて男ハ刀依
左女房方ハ鏡持言ハト書テ
護摩を依テ之ヲ布施ノ事
あり

所松為古案ハ平桓天威北庭
曜者良辰於雲野嶺を宴衣就
向此之依也反源松法子也ハ
非如也所字色而水也林因松
亮海頭腦傳法和帝祇言去振
智劍加刑野將門一皮分一列
雲也、換渡也此松古案権利
悉到丁寧意志何不所松書
亦是以歸伏悲歌古從取片珠
奈何有江法乎早願誓念此
時、并懸映光禪房より更不
下之氣者也、今、清法

七月二日

頼長

明王院相授阿闍利小僧房

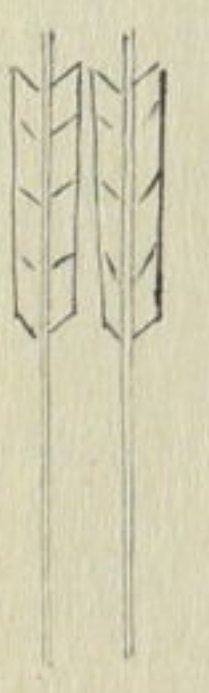
右、浪田中、成、所書之、田中、成、
之、氏、字、治、左、符、之、事、之、

一 神箭御太刀弓矢箭書付
書

奉納人
御弓

年月日 大旦那権大般言正位兼行肥後守源朝臣頼定

奉掛 御宝殿
 撫箭数 千六百本
 内通箭 五千七百本



年月日

師名
 誰内
 射手名
 檢者
 何某

一 奉始書御訪書

赤辰今月秋之極
 千秋百歳乐未英
 君之伴々天の羽衣
 多引と法子地
 いと所
 年月日
 謹上奉徳尊神 御寶前

前後下キ世時水月
矩肝要ナリ

右の文の内、
むふの江の又天得周
地得一切法飛人海皇の
久君の代の久しうきのみ
きりきりきりきり

一 紀法又之儀

- 一 致白紀法又之儀
- 一 何と云他を信る教事
- 一 之ニ中法を信るは多し
- 一 中合衆を以て誦経修業

右の文は皆於相背也

梵天帝釈四大天王惣而
日本國中六十余州大小
神祇別而關東鎮守伊豆

管根兩所推現八幡大菩
薩天満大自在天神部類
眷属神罰冥罰各可蒙罷
者也仍起請文如件

年月日 名字官奉列

宛不殿

右の文目、
其名一乃夫し其利の徳
不用人教多付ハ其利の徳
月々古事本も其利の徳
利の事、
法又ハ魚の衆智の事
乃た其の事、
し其上魚を志る掛二番の
の魚をす

又昔もりし心と無し是法紀
法文の意深き事し古き書も
かゝるふ及なり是法紀小
記なり

一 部数眷属と云ふハ部数
と云ふハ 沐の字に十六方
の所記は子中眷属のすま
るなり

一 罪又五罪を除く一傳と云
又五罪を除くハ空經に
付罪をきりては極罪を
せしと云ふハ 伊智五罪
重き極罪と除くは法
非をきりては所記を述
はるなり

一 津野宮野と云ふ津野と云

五津七代(云々)宮野と云
ハ代ハ津の字なり

一 中野津の字々平の字に
まて津ありハ別字一法に
津又と云ふ交ハまとい

一 名字方と云ふ名法と云
ハ人の名を判を自ら事
記法と云ふ判法と云ふ

一 記法と云ふ判法と云ふ
者をハ折返と云ふハ津
紀と云ふ人の名ハ

一 冥法紀法又云

敬旨天野靈社上巻起請文事

一 何と云ふ

一 本

心宗判

津紀

右系：元氏於今遠宵志

謹請散供再拜々夫惟年号
者文明三丁巳年月並者十二
箇月日類三百五十餘箇日
擇吉日良良而致信心請白
大施主等謹奉勸請掛忝上
者梵天帝釈四大天王豹尾
黃幡牟德釈迦善遊釈提桓
因奉始日光并月光并七曜
九曜七八宿三千星宿四天
八天十二天三十三天十二
神將七千夜叉廿八部類衆
弟六天魔王聖主大地世六
禽百億頭跡百億梵天帝釈
百億小鐵回山百億彌勒百

億摩訶彌勒山百億日月百
億大海江河百億閻魔法王
百億諸天百億天衆百億天
人百億天女百億童子百億
大刀夜叉百億惡魔百億天
上百億閻浮提中所顯現大
小神祇上者有頂天下者金
輪百仙神皆驚白言堅牢地
神八海所拱龍王竜衆十王
十昧俱生神太山府君司命
司祿冥官冥衆有情非情元
辰星南斗北斗星日曜星月
曜星破軍星羅喉星計度星
巨文明星七夕星四三星八
葉本命星四万四仙五万五
佛大聖摩利支尊天大白神

大歲神八靖神十二月將神
天葬神地葬神阿定智神天
神地神山神海神木神火神
金神水神風神諸神諸井部
善神東方降三世明王南方
軍荼利夜及明王西方大成
德明王北方金剛夜及明王
中央大豎不動明王大黑尊
天毘舍門天王大弁賤天女
宇賀神十五童子三宝荒神
多婆羅天正武塔天神頗利
采女蛇毒氣神人王子八万
四千六百五十余神金剛界
五百余尊胎藏界七百余尊
金剛藏王日光蛇帝王大聖
金剛童子普天卒土愛深明

王妙見并過去現在未來三
世諸仏一万八千軍神二万
八千軍神三万八千軍神四
万八千軍神五万八千軍神
六万八千軍神七万八千軍
神八万八千軍神九万八千
十万八千軍神二千八百四
天童子一万燈明仏二万燈
明仏三万燈明仏藥師如來
宝生如來无量壽仏如來不
空成就如來文殊普賢觀音
勢至十六善神八万四千夜
及神忝茂日城宗廟天照皇
太神宮四十末社内宮外宮
諸末社八幡大井春日大明
神王城鎮守山王廿一社根

本中堂本尊立塔諸坊諸木
尊薩埵祇蘭牛頭天王松尾
大明神平尾大明神吉田龍
田熱田大明神大原野大明
神稻荷大明神賀茂下上大
明神貴布祢大明神北野天
滿天神三輪大明神住吉明
神三十番神愛宕四處大推
現熊野三處大推現十二處
推現九千九處推現吉備宮
大明神津嶋天王羽黑山大
現權葛城大推現芳野歲主
推現子守勝手大明神梅宮
大明神法花北八品三藏法
師鞍馬山毘舍門天王吉祥
天女兩室童子關東守護神

伊豆箱根兩所推現三嶋大
明神廣嶋大明神富士大推
現白山妙理大推現立山大
菩薩諏訪上下大明神出雲
大社大明神多賀大明神柳
靈八所大明神殊氏神惣而
大日本國中六中六ヶ国大
社二千小社九百九十二處
大小神祇等地藏并龍樹虛
空藏并梅担香并天厄神八
万四千鬼神大陰神歲破神
天菰神大疫神大歲神夜乞
土神妙鬼神六百五十餘神
金山大十万鬼神毘舍門天
王父天狗母天狗太郎坊春
屬九倍四万三千四百九拾

余神善喜師童子八所大明
神券屬等飯綱大權現四十
四萬一千券屬大天狗鬼三
萬三千小天狗魄三千券屬
日知羅天狗十二八天狗等
城中山々嶽々峯々呀々居
住大天狗小天狗等各作群
集而正踏之自照鑑人給若
偽心於有之者立所受白
癩黑癩重病八萬四千之毛
敷四十二之骨常日々夜々
苦痛每止蒙深原御哥弓箭
冥如未代盡仏神三宅虫作
取願不可叶於後世者隨在
八寒八熱阿鼻每門大地獄

至赤赤永却不可有更浮期者也
仍靈社上卷之起請文如件

年号月日 名字官実名虫判

宛所

敬白天罰靈社下卷起請文夏

一 一 一
一 一 一
一 一 一

右ニ極色願於相肖者

謹請再拜夫當辛者文祿元年^壬正月十四日月並吉十二月日數者凡三百五十余箇日撰吉日良辰忝茂奉請驚上者梵天帝釈四大天王日月五星廿八宿下者堅牢地神地之卅六禽惣而日本六十余州大小神祇熊野三处大権現住吉八幡春日大明神稻荷祇園加茂坂寫香取松尾平野別而天満大自

在天神白山大権現氏神於今生者受白癩黑癩重病三百千骨穿骨節於来世者墮在八万地獄每間奈落底每浮也諸神渚仁之可蒙而罰者也仍灵社下卷起請文如件

名字官某判

年号月日

宛前

卷の文

右の上巻と下巻の字中巻

と来るとは十卷の又云神下を

少略志としてし

一 一ヶ条の折を約して右条として

とへつて右条を背志と謂之

ニク系々系々あり右系々
他々

一 七夜記法文より七夜は年
五に集ま之七夜は八夜野
八夜大筆擬同富士山出
の牛五之若急成内然野の
牛五七夜之七夜之

敬白奉驚七社起請文事

今度川領分國統所檢地

此礼水分仕信り安業々

一 限回之級百姓等申捺不於

此券刊の右一没沙沙

一 礼物流飲限一決私欲信

安業々

一 浪化國必係記親於此中略音

信五在志及下没言上事

右の角若能為一平夜曲
於今遠移之

枕天帝釈四大天王撫而日本
國中六十余州大小之神祇別
而斯一紙愛宕山大権現部類
眷属神罰冥罰各可蒙罷者
也仍起請文如件

名字官某

年号月日

宛不

殊六通枕天帝釈

一 淨々々々文法同か之夫々

をハ

能
醍醐山被放三宝如護可請
五大堂可責者也仍起請文
如件

年号月日

右字添 名字官某

富士大権現御罰可蒙罷者
也仍起請文如件

年月日

右字添 名字官某

大峯大権現御罰可蒙罷者
也仍起請文如件

年月日

頭ヨリ 名字官某

氏神殊八幡大菩薩御罰可
蒙罷者也仍起請文如件

年月日

右足ヨリ 名字官某

熱 羅八方遊行今日之番神御
罰 蒙罷者也仍起請文如件

年月日

ヒタリアミヨリ 名字官某

江州中堂釈迦後世毎間業
虽経多却可請若患者也仍
起請文如件

年月日

両字ヨリ 名字官某

右七右の牛王、七右の血と
行々々々

一 号法とのふハ控限のり
一 於日本誓詞之盪觸者伊特
諾尊已至黄泉津平坂與伊
弉丹尊相向遂建絶妻之
誓言、亦素盞盞鳥尊欲奪
高天原于明天照皇大神防
賜之素盞盞鳥尊陳賜立有

誓、誓詞誓問誓言ナト
云事是等ノ古事ヨリ起ルヤ
唐初、盟會盟誓ト云夏約
守ッ礼法ッ不失為ニ牛血ヲ
ル夏アルトゾ借又式目之制法ハ
貞永元五月十四日、初ル一説
七月十日巳丑ノ年為表政道
毎私召評定之衆各連署之起
請文其衆為十一人此房恭
明如此兩人以上十三人也為理
非决断猶加連署之判形於此
起請ニ玉フト云ク

一 起請文昏後凶夏之事

一 鼻血ヲ出夏

一 起請昏後病夏

付除本病

一 鴉鳥糞懸夏

一 為鼠被喰衣裝夏

一 自身中令下血夏

但除楊枝用也并月水痔
病

一 重淫服夏

一 父子罪令出未夏

一 飲食眩咽夏

但被打背可失定夏

一 乘用馬敬死夏

右起請文書之間七ヶ日之
中各其失者猶七ヶ日可參
籠社頭若亦二七日猶無失
者就惣沙汰之道理可有
御成敗之狀所定如件

右衛門尉清原秀氏
文曆二年閏六月廿一日

左衛門尉藤原行恭
圖書允藤原清規

一 抄云又此云事

一 字之傳古今及何之
最信日全於遠背有八情
大書廣也定山大柱既列日
氏外系罪也仍相是此辨
本書五行
年号月日
名字友某

泉石

右子為信之血判しし不
及此辨云又此の内血判し
是し

一 評物云事

尚流何之及連之依り
所執の事一毛之及此
去源也事半於之
若此之類可為信也仍此辨
本書五行
年号月日
名字友某
朱印

泉石殿
照付

又

何之飲思事也及此古
之及此事自今之後
於之及此信也
心之執也事半於之
親友信也事半於之仍此辨

年号月日

泉石殿
照付

七少少銀名小入へしとの後や
一 矢文書依の事

左度出城、言勢をくわき送
たるうして一國、愼人身利隣
境と押成素心奇勝并依、
とれを討氏、言と救へき、
や今法士に世所公急備中と
ゆりうり、中、八、別、由、事、
と必、六、教、堂、法、師、を、我、
新、法、士、中、を、
名、字、友、
月、日、

右、左、右、中、を、事、を、
取、公、の、長、(長、)に、化、
ふ、ま、ま、ま、ま、
ま、ま、ま、ま、
ま、ま、ま、ま、
ま、ま、ま、ま、

おとと子、ま、ま、ま、
一 斗、第、文、書、依、
二 衆、を、一、人、百、

と、度、右、邊、合、一、部、初、
と、味、方、を、軍、軍、任、
法、如、路、下、
山、名、
法、上、右、邊、
又、
七、
ま、

攻、之、陰、此、日、滅、難、
後、勢、山、時、三、七、面、
待、送、以、可、送、浮、敵、
方、三、吾、攻、應、海、強、

七、七、

一 歌首と古宗

志茂と昔と交河門 送
 送へし一と子こひに 送へし交
 信長は昔は余坂井右邊一子
 余傍に居居堅田邊をと脱
 振り受けしころは昔は
 て上へ運ぶるを右邊に射く
 也や扇飛出たり右邊に信長
 打振り振りて昔は之を見
 されし面あり 昔は之を懐
 安うしむ坂井の首と信長
 才に送りしその年へして
 女成とてその波が面と射
 河のその年のその年へして

通記五卷三

元禄元上月廿日 上野郡

鎌倉上野郡

佐之宮 右邊射敵

本

右に佐々木孫三郎 送
 今朝孫三郎 信長
 坂井右邊の首と信長を送りし
 本別信長(土佐)と交河門
 威はけけけけけ行ふか
 尚居りて面と信長は射
 してはしその年へして
 交河門の志茂は射
 打振りし四人に交河門
 信長は昔は余坂井右邊
 余傍におもひに居居

佐之宮 右邊射

元禄元の上月廿日 本

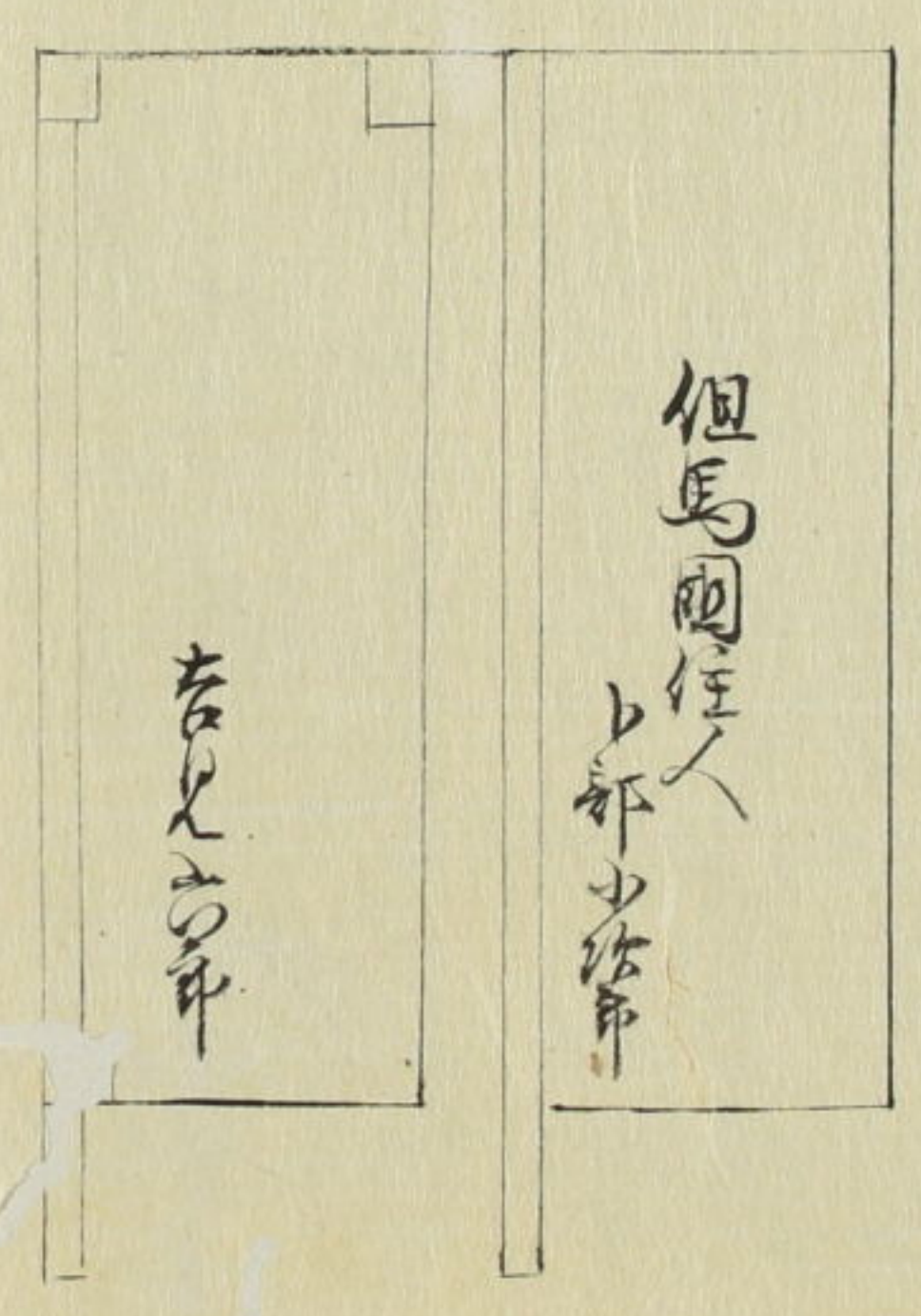
道の安成守
二上侯藩主殿

一 斗策法、白紙法云々
子法云々
糖酒云々
酒云々
漬物云々
梅酒云々
汁云々
とて是と云々

柑漿酒

註

一 折角小名云々



右破地を去味方と居り
牛の文字と箱を下に
をて牛一匹、剣形も
又字と云々

一 矢中牛紙羽中の三才
牛の文字と箱を下に
右法は走羽、牛小名
と牛の法中右の例
の名を字と居り
先弓指と人、牛
心も是しと居り

越中舟住人 井上出羽守正次

古紙の字を誰と云
と居り

一 貝足櫃鞍袋、前めきりきり
糸添ししとこいふりきり
ししと半りきり九字の表おと
又三半の字添しとこい
相付りてふりかきり

一 総引書紙、堅細紙の書

総引

天文三三
卯月二日

林田五郎

遠堂小十郎

磯部五郎

二日

次柳宗左

野川金右

山形宗右

三日

吉本新左

辰代若左

右此中終りしノ古布を
参りし古布を櫃紙の付
出紙にし人々未だ
見しと半付り也一紙中
左様なる古布も有り

天文三三 総引書紙
九月朔日

大原亮二郎

河井孫三郎

友田五郎

市川仙左

長田三九郎

山本友内

清水七左

上村門三郎

二日

三日

久世清隆

永正元年卯月二日
因山田村赤坂一隊別
軍勢並列等事

細川義人
友 右馬允
牧 新公清
山尾依後等

二日

井上玄蕃
三上玄房等
依竹官内

二日

系友茂
竹村大助等

右ハ屋代の事なり

陣中よりとむくの事ハハ
尚病ハ名れちて候と書
忌人ハ左ノ忌人
取系の日ハ日の下ノ事
半付なり

永正元年六月十日
備前國小浜軍勢
不向

細川政勝 千二百騎
甲州政房 二百騎
水國政房 一百騎
山本玄色 一千二百騎
田代忠重 一與野島

惣合軍勢 千二百騎

右名ノ下ノ日付
再々半々ノ事
人較

多かとはなす志くせす凡
こして人教へたは半も
又いひ上二年留りも
こころに合とらひ上
教合とま之料物口
こころ三寸さあ半又寸谷
とゆや

一首帳古宗

本師と能く思ふて後得の
ゆり候もゆきなり

永享十二庚申八月廿日已別於
下野國結城館討取頭源文
一平

首を柳田之馬 山本内河村捕

首を 夫持九左衛門 桑田内河村捕

首を 不知名字 佐藤宗八 内河村

首三 山内河村捕 名不知 村三左衛門 楊井内河村捕

石川半三郎 屋子持内河村捕

首を 不知名字 山内河村捕 井上内河村捕

右首取何百何十
再 全捕何人
叶和追討名取

右一筋首帳之形の志とて
即巻に二十の字も拾の字も
一名字不知と書は付首や
名不知と書は凡下首や首の
位依内河村の字書凡下首と
去あるは凡下一番首の三言首
と書は首取内河村の字書凡下
まて巻の取手一筋も首と
取は首と書は凡下

永正八年八月廿日
山合領河内首目
二書

信京公河首 長尾公河捕
山造殿首 國左河捕

松平去佐首 稻島河捕

名字不知首 飯尾河捕

吉田河捕首 多田河捕

大將正利 津尾河捕

右首數千部首面

并河捕何人
河捕河首知教

文明二己丑年八月廿日
河内國河津河合
河内河捕頭目派

佐木日向河捕分

首 山田大守 母長河首 全河河捕

首 竹内河首 河内河捕

首 松下左京 守河 田中河捕

首 河田河首 杉浦河捕

右首數何百何十

河内河捕何人

赤松河捕河首

書河河首

鳥山河捕一手者河捕分

書河河首

右一河河首河捕分

河内河捕何人

河内河捕河首知教

右河河首河捕分

河内河捕河首知教

河内河捕河首知教

少初任上行候仕掛の建候
月日

軍曹從八位上誠智武則判
軍監正七位下文彦助判判
浪谷鞆員尉殿

古中^{古中}北^北市^市の^の中^中の^の事^事

永正八^{永正八}年^年分^分二^二月^月巳^巳判^判於^於
丹^丹尾^尾山^山合^合戰^戰初^初の^の事^事

討死^{討死}文^文之^之事^事

切^切府^府曾^曾根^根内^内通^通

宍^宍府^府吉^吉川^川武^武吉^吉

討^討府^府松^松尾^尾右^右之^之事^事

右^右の^の事^事何^何十^十人^人

并^并討^討死^死何^何十^十人^人

明德二^{明德二}年^年未^未十二月^{十二月}晦^晦巳^巳判^判
於^於内^内野^野合^合戰^戰初^初の^の事^事

武^武田^田中^中勢^勢正^正右^右府^府曾^曾根^根内^内通^通

野^野木^木山^山城^城守^守切^切府^府武^武吉^吉

新^新野^野原^原守^守池^池田^田清^清盛^盛

中^中野^野目^目赤^赤松^松右^右之^之事^事

信^信田^田徳^徳貞^貞討^討死^死

右^右の^の事^事何^何百^百人^人

并^并討^討死^死何^何十^十人^人

文明二^{文明二}巳^巳年^年八^八月^月三^三日^日討^討於^於
後^後河^河國^國淳^淳和^和系^系今^今川^川合^合戰^戰

討^討死^死文^文之^之事^事

澁^澁府^府松^松崎^崎隆^隆茂^茂

大^大府^府遠^遠慶^慶三^三年^年

矢^矢府^府石^石川^川守^守人^人

決死府 改題 花村恒芳
已上何十人

大のしつ一決死二切府三
矢府四決死府と改題した
ゆもといし何十人と記す一夫
右何百何千人より死を列挙
証府にさす状と云ふは貞臣没
死人と一曰く夫の奥小まへ
し若死後を之と云ふ名を上
府と下と云ふ法は府と一と
但決の若死のくは貞臣没
と改題し首領小まへくは貞
臣没一決く夫の決死を奥
の奥のくは改題し一決く夫
のくは改題し一決く夫の
府の決死を改題し一決く夫

至死とハ

人の信ふくはし決死の
切府二家府三切府四切
決死のくは改題し一決死
夫の府三夫府と夫の中奥の
決死を改題し一決死は
何府と改題し一決死は
の改題し一決死は
と改題し一決死は
流し一決死を二一と
と改題し一決死は
かと改題し一決死は

一 圖に左に列挙調府

文明二己未年八月三日
後河内源氏系七川一
初く貞臣に改題し一
改題し一決死は
夫の決死は

首々山内友房
六月廿日 加茂新田浦

首々 山内友房

一 威伏調取

立紙撰紙初三永り

今度於薩摩國と詔示令
初取軍波討捕以勝利
威威云保右左衛門尉於
子孫下傳之

慶安三年九月三日 沖澤判

鼻山本羽之友

去月九日 和泉河内由國侍
并出言未辨野人於八幡表
合初初冲方並及雅依
批法併 池向依之粉骨斗界

波初勝利取取軍と討捕判
波初自りる名也波取手柄
辰名可勝斗と依と交わ
首因勝本國中付年今令
波初保のと勅軍右威討取
波

文書元 志照

六月廿日 沖澤判

細川出羽之友

右長公芳様の軍勢ハ由方
と平法取ハ味方

一 冲浦判威伏

○
去月廿日於他馬國 由是赤松
退落別名當取人討取
牙波取波右左衛門尉

物之出之也古刀一賜きん
一箱古きしん

未号

月日

富樫之内より

去月十三日云于掛川景
以は佛神あり為忠切に
紙ありしは可地をなす
肝要なり

文明二

二月十日 御津

川上誠子より

今度依去惠致相川而御共
下文武功より殺致なり

十月廿六日

富樫之内
沖判

織田陣正忠夜

十月六日信玄公御合御討拵
左衛門尉 一書より御致事
死に治進去月廿六日死
治月の上忠致に之は陸奥法
陣書より去月廿六日信玄公
御致事可為肝要仍細御書
及跡略通拵あり之儀
依之在中勢大御内書事別
書に於て御書可也なり

十二月十七日

富樫之内
沖判

白山尾浪より

去月卯月廿八日於去月廿四
日依御捕一紙に列列に
此書扇より右に信玄公御書
依之御書に御書あり之儀
之右御書より御書あり之儀

一 抽右兵也

未号

月日 申判

弓削集人より

今度於松州大坂表程多
傍并仙波多不竭於骨所
軍為系之は於働威多
因茲賜松平氏也

去去年二月

正月十日 申判

松波信海より

今度お大坂表六月六日一
御別抽軍忠筋功多
於辰吉津州より也
為と賞金百石 同日 東
家より 申判 廿二万九百

今度お大坂表六月六日一
御別抽軍忠筋功多
於辰吉津州より也
元和元
十二月十日 申判

松波信海より

知行目録

一 何万石

一 何万石

一 何万石

今度お大坂表六月六日
合戦初筋軍忠筋功多
於辰吉津州より也
元和元
十二月十日 申判

松波信海より

今度お大坂表六月六日
合戦初筋軍忠筋功多
於辰吉津州より也

別名は能くは
御威は 昌吉沙志刀一腰
必吉は 人雅有長
下柳吉は 昌吉 昌吉也
心は 昌吉

未号

月日

仔細判

昌吉沙志刀

於何國何郡合戦討身
致底致安人未救多討死也
不度也右名は津州と昌吉
お忠常と列ら 昌吉沙志刀
昌吉判と 昌吉也仍執也
昌吉

未号月日

奉行人

昌吉沙志刀

右名は威は又之儀討身
昌吉判と

今度及揚州大坂表程多橋
并輝号測防物之判 昌吉
判也月系 昌吉判也昌吉
昌吉 昌吉判也昌吉也

十月廿二日 昌吉判

昌吉判と

右名は威は昌吉判と昌吉判
昌吉判と昌吉判と昌吉判
昌吉判と昌吉判と昌吉判
昌吉判と昌吉判と昌吉判

一 威は昌吉

昌吉判と

感状書

一月の申小書を付し月
と申す去に何日書月と
隔書おと付に今度何月
何と申す

一月の申小書の日にお申す
先必下と申す及下と申す
よの申す

一切の申小書へお申す
と申す

一月の申小書と申す付及の申
と申す及の申すは信利
付小と申す

一月の申小書と申す申す申す
と申す申す申す申す申す
申す申す申す申す申す

一月の申小書と申す申す申す
申す申す申す申す申す
申す申す申す申す申す
申す申す申す申す申す

一月の申小書と申す申す申す
申す申す申す申す申す
申す申す申す申す申す
申す申す申す申す申す

一月の申小書と申す申す申す
申す申す申す申す申す
申す申す申す申す申す
申す申す申す申す申す

一 下も我切状辨又い下も純
我切状辨にまうもあま
志をよの久きこととては
おれとも教^取北三度^取
切と^取彼^取そ^取も^取と^取ん^取

一 辨にさる感状小必ま後
のみの冠^取水辨と仰の字
とらま^取と^取と^取と^取と^取

一 向後身^取上^取不可見^取放^取と書
たる古言も^取と^取と^取と^取と^取
胡念^取の感状小^取と^取と^取

一 於子孫^取下^取傳^取是^取と^取と^取
の文^取之^取主人^取の^取少^取家^取辰^取
と^取傳^取と^取傳^取と^取傳^取と^取傳^取
この^取然^取

一 不可^取勝^取斗^取是^取と^取と^取と^取

多してあま文云や

一 不依^取働^取切^取斗^取入^取文^取云

不依^取働^取切^取斗^取入^取文^取云

奇^取持^取と^取云 希^取伐^取働

非^取妙^取と^取云 右^取辰^取辰

武^取切^取と^取云 辛^取号^取辰

苦^取号^取と^取云 武^取勇^取辰

是^取旦^取と^取付^取と^取又^取と^取付^取と^取味^取と^取

不^取調^取感^取状^取の^取末^取と^取と^取と^取

を^取ん^取の^取文^取云^取ふ^取古^取事^取の^取也^取と

古^取人^取と^取事^取と^取也^取や^取一^取段^取不

感^取状^取の^取辨^取と^取不^取於^取江^取海^取系^取と

直^取付^取方^取の^取と^取と^取と^取と^取

所^取對^取向^取と^取對^取向^取と^取と^取と^取

あ^取ら^取古^取事^取と^取此^取抄^取を^取案^取

こ^取の^取と^取

一 軍中泣進状

於河國何部合戦討中
供了り家入合捕并右討
手負人殺致進 上聞泣
進所如併

一 名字友 合捕

一 名字友 右刀討

一 名字友 手負

一 名字友 討死

己上

未号月日 名字友

名字友友

一 討死泣進状

一 見死 ○ 所自重之又必年
又所討中

歿早賜所澄判は後代

免溢軍忠 未 右去子

十一月廿六日於河國非之
歿而討死人殺侍左

名字友

名字友

名字友

名字友

未号月日 名字友判

名字友友

右軍古事人法年上門
具及合戦討中は右侍等
の家上討死を名取中
之成りわめて彼患人急を
記て主君の技ア不入
所池判とア文は是と名取の
物と之の判形は在子神
作ハ名子之に構て二
口分小久とと流して一口分

上色小田代又河内判日の
下ノ花判ト云々
一人賃出ト書ク古案

人賃
定

為人賃上府苦方言
此中ハ判妻字有在
下至任色也ト云々
是法ハ内百貴又西
又云内左門尉外
上云迄ハ注分一
先取ハ云々
十一月十日 膳頼判

天正少次家友



